



チューリッヒ留学回顧録

宗谷医師会
わからない耳鼻咽喉科

上田 征吾

私は昨年10月に稚内市で耳鼻咽喉科クリニックを開院しましたが、それまでは旭川医科大学で勤務しておりました。その中で2010年5月から2013年3月までの約3年間、チューリッヒに留学する機会を与えられました。現在、家族を旭川に残し、単身赴任で稚内に勤務しておりますが、ふとしたときに楽しかった留学時代のことを思い出してしまいます。

チューリッヒは、スイス北部にある同国最大の都市です。市内は路面電車であるトラムやバスの路線が発達し、市内の移動に自家用車を全く必要としません。ヨーロッパの金融・経済・商業・文化の中心地として存在し、市民の生活水準・教育レベルは非常に高く、また市の中心に湖が位置した風光明媚な都市です。周囲の国々の影響で、スイスではドイツ語・フランス語・イタリア語・ロマンシュ語の4種が公用語として使用されていますが、その中で、チューリッヒはドイツに近いこともあり、ドイツ語が主に用いられています。幼少期よりドイツ語に加え、英語とその他の公用語が義務教育とされるため、大体の若者は最低でもバイリンガル・トリリンガルだったりします。実際勤務していたラボの学生たちは、ある人とはドイツ語、私とは英語、またある人とはフランス語で会話しておりました。富豪のお子さんがスイスの学校へ入学させられる理由が分かります。スイス最大の都市とありますが、スイス自体の人口が800万人弱と少なく、その中でチューリッヒの人口は約36万人と旭川と同様で、人混みもあまりなく、どこか牧歌的で、北海道育ちの私には大変過ごしやすいところでした。

スイスではチューリッヒ以外にも魅力的な町があります。特に印象的だったのはツェルマットというスイス南西部に位置する田舎町です。マッターホルンの麓に位置し、環境に配慮したガソリン車乗り入れ禁止のリゾート地です。町からもマッターホルンを眺めることができるのですが、ゴルナーグラート鉄道を利用し30分ほどで標高3,089mの展望台に行くと、間近にマッターホルンを見ることができます。またスイス中心部に位置する田舎町グリンデルワルトはオーバーランド三山のひとつとされるアイガーの麓に位置する小さな町です。宿泊したホテルから見たアイガー北壁の迫りに言葉を失ってしまいました。また、ここからは鉄道を使って1時間ぐらい

で、ヨーロッパで最も高い位置にある標高3,454mのユングフラウヨッホ駅にも行けます。このような絶景が望める田舎町以外にも、かわいらしくコンパクトで歩いて回れる旧市街がある首都のベルン、湖が美しいルツェルンや国際都市ジュネーブ等々、魅力的なところでいっぱいでした。

さて、私が留学していたラボですが、チューリッヒ市外れの小高い丘に位置し、バルセロナ出身のナダール先生を筆頭に、当時ポスドクが私1名、PhD studentが5名、修士課程の学生が1～2名の所帯でした。自分の実験以外にも、留学後半には修士課程の女学生の面倒を命ぜられ、忙しい中にも楽しく仕事をさせていただき、あっという間の3年間でした。帰国の際にはラボの仲間が私の名前と滞在期間を刻印したスイスのアーミーナイフをプレゼントしてくれて、思わず涙ぐんでしまいました。なんでもスイス人は、子供の時に親からアーミーナイフをプレゼントされ、それを一生大事に使用するとのことです。

スイス以外にも、留学中はヨーロッパのさまざまな都市を訪れました。それらの都市は、観光ももちろん魅力的ですが、食べるのが好きな私は、どちらかというと食事が主目的でした。思い出深いのはポローニャで、不運にもスリにデジカメを盗まれてしまい、悲しい思い出しか残らないはずですが、ミートソース発祥の都市からも想像できるように、何を食べても美味しく、私にとって良い印象しか残っていません。とりわけ、ブイヨンで煮込んだいろいろな部位のお肉をシンプルに野菜ソースで頂くポリート・ミストが美味しかったです。またフィレンツェでは、豪快なトスカーナ牛のステーキ、ピステッカ・アツァ・フィオレンティーナが忘れられない味です。バルセロナでは地中海に面していることもあり、魚介類の料理が美味でした。また生ハムのハモン・セラノに、リオハ産の赤ワインがたまりませんでした。ソーセージのイメージが強いドイツでは、本場のその味はもちろん美味しいのですが、それ以外にも、ミュンヘンではこれぞ「原始人の食べる肉」的な豚の膝部分の肉を骨付きでローストした料理、シュバイネハクセが印象的でした。重厚なドイツビールにとってもよく合いました。美味しい思い出の写真をお示ししたいところですが、私の見苦しい写真を提示するよりは、興味が出た方は、ぜひネットでお調べいただければ幸いです。